

校長室の窓

変わらないもの

— 雪景色の正則 —



3学期早々の雪になりました。登下校や職員の出勤を心配しましたが、さいわい事故もけがもなく（横断歩道で滑った子は何人もいたそうですが）、平常どおり授業を行うことができました。とはいっても、お約束の雪遊びを楽しんだのはいうまでもありません。年に数回あるかないかの貴重な機会です。大人にとっては迷惑な天気も、子どもにとってはわくわくする日となります。

それは、昔も今も、これからも変わらないと思いました。

学校に求められることは、時代とともにどんどん変わっていきます。学校はその要求に応えようと、その時々先生方が必死にがんばってきました。

かつては生活の向上のため、科学技術の向上や基礎学力の充実を目指しました。その結果「受験戦争」や「落ちこぼれ」などの言葉が生まれました。その反省から、ゆとりの時間が生まれ、学習内容を削減して、心豊かな人間の育成が必要であるとされました。ところが、今学校に求められていることは、「安心安全」であり、「学力の向上」であり、「いじめの撲滅」であり、「国際化」であり、「情報化」であったりと、多岐にわたります。次の学習指導要領（平成30年告示）では、「新しい時代に生きる力」の育成を目指して、道徳の教科化をはじめとする様々な取り組みをしていきます。すでにそのための研修会や研究会が開かれ、子どもたちにとってよりよいものとなるよう着々と準備が進められています。



教育の内容やその手立ては、時代や社会が求めるものが変われば、それにふさわしく変えていかなければなりません。でも、変わらないもの、変えてはいけないものが学校には脈々と生きています。それは「子どもをよい人間に育てること」と「子どもに学力をつけること」だと考えます。本校の教育目標にはこうあります。

「夢をもち 未来を切り拓く 一かしく あたたかく たくましく—」

かしく … よく見て よく聞いて よく考える子
あたたかく … 思いやりのあるある素直な子
たくましく … 体を鍛え 粘り強く取り組む子

時代や社会がどう変わろうと、これまでも、そして100年先までこれは変わらないものです。

100年後の正則の子たちが何をどのように学んでいるかは想像できません。でも、やっぱり雪の日には、大喜びで雪遊びをしていることでしょう。